立命館大学研究部

2011 年　5　月　12　日

2010 年度採択　研究の国際化推進プログラム「研究成果の国際的発信強化」研究成果報告書

研究代表者	所属機関・職名：産業社会学部・教授 氏名：仲間裕子
研究課題	自然の美学―ロマン主義的表象の研究

Ⅰ.「成果発信」の目的・意義の概要

今次の国際的研究成果発信の目的・意義について、概要を記入してください。

本国際化推進プログラムにおいては、拙著『C.D.フリードリヒ：画家のアトリエからの眺め―視覚と思考の近代』（三元社、2007 年、全 281 頁、立命館大学博士論文出版助成の交付による）のドイツでの翻訳出版を目的としている。

当著書の一部はすでに「自然を発見する？ロマン主義的表象の再考」（『思想』、岩波書店、2009 年 10 月号掲載）として公表し、また「グローバル言語としての自然の美学を再考する―インターカルチュラルな状況におけるロマン主義的表象のディスクール」という論題で、国際美学会コロキウム（2009 年 10 月、アムステルダム）において報告している。このコロキウムではグローバリズムや危機の時代に関連するテーマが選ばれ、なかでも風景・自然の表象に関して独自のセッションが設けられた。これも、この研究が目指しているテーマに国際的な関心が高まっていることを示し、本研究を発信することの意義を証しているといえる。

なお、本著は、国際共同研究プロジェクトである、「‘認識’と‘構築’の自然の風景像―21 世紀の風景論」（2010 年度～2013 年度科研基盤研究 B、仲間裕子代表）の主要な研究書のひとつでもあり、そのドイツ語訳は、海外共同研究者との研究交流を深める手段ともなり、この点においても有意義であると考える。

Ⅱ.「成果発信」の成果と今後の展開計画の概要

今次の国際的研究成果発信で得られた成果と今後の展開計画について、概要を記入してください。

著者自身による日本版からドイツ語への翻訳が終了し、エアランゲン＝ニュルンベルク大学美術史研究所のハンス・ディッケル教授がプルーフリーディングを行った。出版に関しては、19 世紀に設立され、美術関連図書の出版社としての伝統をもつ、ベルリンの Reimer Verlag から 2011 年 7 月に刊行することが確定した。出版への実務的交渉やドイツ人研究者（推薦者）との出版内容の確認のため、2011 年 1 月にベルリンを訪れた。ドイツ版の書名は *Caspar David Friedrich und die Romantische Tradition― Moderne des Sehens und Denkens―* になるが、日本版にあらたに補遺（「崇高とロマン主義の今」）を加えた。

2011 年 5 月にクラクフで行われる「美学と文化：第 1 回ポーランド・日本の交流コンフェレンス」において、「近接の風景、遠方の風景」の論題で報告をするが、その際、本著の研究を紹介する。また、同月にニュルンベルクで開催される国際美術史学会プレ・コンフェレンスの報告においても、同様に、海外の研究者に本研究への理解を促す契機になると考える。

なお、2011 年 10 月に本著のテーゼに基づく「21 世紀の風景論」の国際シンポジウム（主催：立命館大学国際言語文化研究所）を開催する。報告者はアメリカ、ドイツ、イタリア、ポーランド、中国の美術史、美学研究者で、パネルディスカッションが予定されている。このシンポジウムの研究成果は『立命館大学国際言語文化研究』に掲載する予定である。